

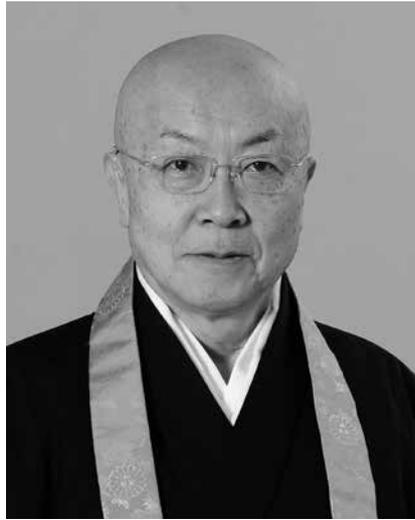


一般社団法人 大日本武徳会

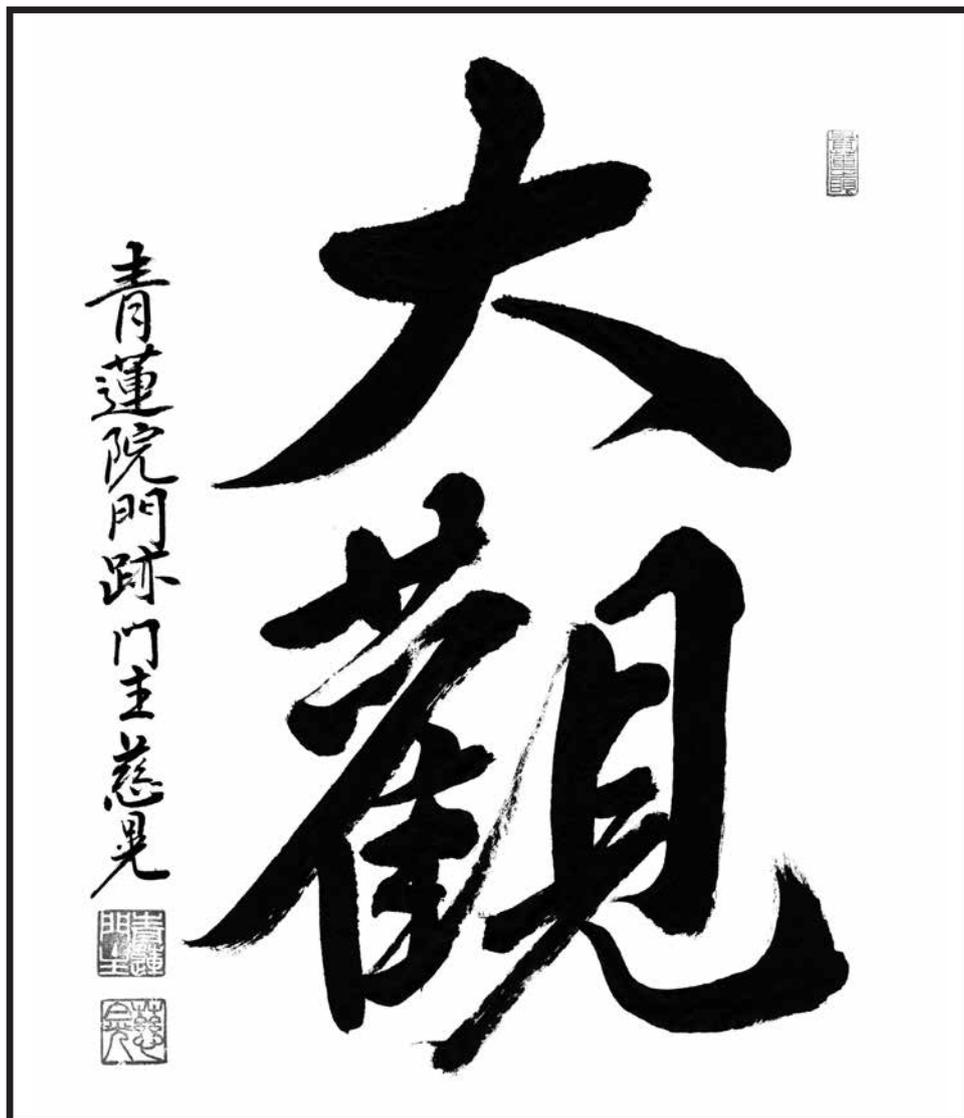
会報 武徳

2023.4 春季号





一般社団法人 大日本武徳会



武徳の大観と世界武徳祭への期待

濱田 鉄心

この世界においては唯物論的科学的観点から何らかの原因と結果による因果関係により生まれてきたものは全て自然現象の一部です。むしろコロナウイルスも含めて観察可能な万物現象や未だ説明されていないマイクロ微生物もそうです。即ち命あるものは全て自ら絶えず環境の変化に順応していきます。もちろん人間も例外ではありません。変貌し続ける環境に適応して変化しなければ生存出来ません。にもかかわらず皮肉なこと自然環境そのものが人間によってもたらされる公害の為に極端に変化を余儀なくされている現状が存在しています。地球全体が環境ホルモンの膨大で急速な変化と影響により、地球全体における一層の化学的变化に対する重圧と責任が我々人間にのしかかってくるのは必須です。例えば医学界にチャレンジを与え続けている人類の癌患者の増大などはこの目まぐるしい化学変化の因果関係が多分に影響していると推測されます。四十六億年前に地球が誕生してから、七億年という想像を絶する年月を経て三十九億年前の地球上にアミノ酸を含んだ生命単細胞が初めて誕生し、さらにその原始微生物生命が現在の人類に進化してきた過程は神秘的な奇跡というしかありません。その不可思議な森羅万象の世界で生まれてきた人類にとって自らが宇宙の奇跡の産物として未来の世代にどのようなようにして共存共栄を実現し環境の変化に適応しながら今と未来を生きるかという事の意味を伝えていくのが大観的な命題です。

そういう意味で私達は多くの歴史的教訓から人間性の限界と可能性に対して学び、希望を持ち続ける事の重要性を見出します。本会が掲げてきた日本伝統武徳の保存継承や武徳を通じて青少年育成などは社会や個人が変化していく中で大切な役割と目的意識をもたらしめます。即ち、我々武徳家は伝統武徳を通じて大きく変化し、さらにそれによって社会の変化に貢献し、新しい世界の実現に寄与するという希望の光となり得るのです。襲古還新の原点は変化の為の叡智であり、未来への指針であると思います。大観的な視点で物事を観るという事は単に大局的な見地から世界を観るという事ではなく、遙か天地の空間を超え、過去、現在、未来を見据えた次元の超越も意味しています。

武徳の大観は大観の武徳でもあります。大きく開かれた武徳の扉はそれを志す人たちによってさらに広められ、武徳の精神と心が世代を超えてさらに大きな可能性を世界に作り上げていきます。しかしその遠い道程で私達は常に本会の誇りある歴史の重みを携えて進んで行かねばなりません。先だつての第一〇回一般社団法人大日本武徳会定時社員総会で決議承認された創立百二十八周年記念事業の数々はそういう意味で本会会員全員の試金石であります。この四月にはコロナウイルス感染によって妨げられてきた世界の日本伝統武徳を愛する同志がようやく立ち上がり、七年間待ち続けてきた世界の会員が伝統武徳の神髄を体験する目的のため多くの犠牲を払って来日し一挙に京都を目指して集結します。大日本武徳会のみが作り出せる国際的な武徳の祭典を安全無事

に開催できるように願って止みません。それを達成するには日本の先生方の精魂を込められた情熱とご協力が不可欠です。世界の大日本武徳会の中核は日本の伝統ある先生方の双肩とご活躍にかかっています。

- その第六回世界武徳祭が期待するところは
- 一、コロナ禍を克服したとされる歴史的な大会となる事
 - 二、多くの忘れる事がない感動をもたらす大会である事
 - 三、十八か国二五〇名の参加者がこの厳しい世相の中でも日本に来て本当に良かったという印象を残して帰国してもらう事
 - 四、国際部の参加者が日本の先生方の演武を肌で感じ、伝統武徳の神髄を吸収する事により彼等への大きな未来的励みや原動力となる事
 - 五、最重要課題は参加者全員の成功無事安全が達成される事

本会会員一同が全力で一致団結して協力し邁進すればこれ等の期待するところは全て達成されるものと確信します。

思えば戦後一九四六年（昭和二十一年）GHQによって強制解散させられた本会の悲惨な歴史を振り返り、多くの先達の先生方がその艱難辛苦の激動の時代を乗り越えられて、ようやく七年後、一九五三年（昭和二十八年）に大野熊雄先生が初代会長となり大日本武徳会任意団体の再発足となりました。そして本年度は戦後大日本武徳会の七〇周年記念となります。さらに本会が二〇一二年に法人化して十一年になり、当方が武徳会に関与してきた過去六〇年間に於いて、多くの変化を見る中で、今ほど未来における本会の世界的発展が重要視される時期は無いと考えます。

一九七四年（昭和四十七年）、五十一年前に大野先生と対談していた折、大野会長が当方に言われた「我が国は選択を誤り悲惨な敗戦を余儀なくされた。しかし国は破れたも武徳の精神は滅びる事は無い」この言葉こそが当方にとって決断の要であったことが追憶されます。この半世紀以上で武徳の精神は世界中に広がり、世界武徳祭を通じて多くの武道家が交流の機会を得、更なる技の向上を目指す足がかりとなっており、世界中の思いを同じくする武道家の間に人種や国境を越えてどのような感動が生まれ、輝かしい歴史の一ページとなるか、それは私達会員一同の情熱にかかっています。皆様の精力的なご尽力とご協力を深く感謝すると共に、本年度の主催事業の全てが安全無事、成功裡に導かれることを祈願致します。

末尾に総裁東伏見慈晃殿下を始めとする全ての本会会員の皆様のご健康、ご多幸ご発展を祈ります。



第十回定時社員総会 及び
第十四回武道執行専門委員会

日時 令和五年一月十五日（日）

場所 東急ホテル京都

第十回定時社員総会の報告

令和五年一月十五日（日）午後一時より京都東急ホテル舞の間において一般社団法人大日本武徳会第十回定時社員総会が開催された。出席社員百名（委任状提出者七十三名含む）により本定時社員総会は成立した。一般社団法人法に則り本会定款と内規に従って左記のとおり報告事項並びに決議承認事項について報告します。

記

第一議案 二〇二二年度事業及び収支決算書の件

（二〇二二年十一月一日から二〇二二年十一月三十日まで）
原案どおり決議承認された

第二議案 二〇二二年度会計監査報告の件

原案どおり決議承認された

第三議案 二〇二三年度事業計画書承認の件

原案どおり決議承認された

第四議案 二〇二三年度収支予算書承認の件

原案どおり決議承認された

第五議案 役員選出承認の件

理事選任
濱田博之（鉄心）、竹田豊、山田文典、上村雅彦、中田浩大、渡邊佳代子の六名が再選された

新しく藤井正巳が理事に選任された
監事選任

坂本俊一が再選された

新しく平松男が選任された

藤井正巳は退任した

第六議案 新役員挨拶の件

新しく選任された役員から就任の挨拶がされた

第七議案

内規改訂報告事項について説明された

第八議案

第十四回武道執行専門委員会の具体的な内容が報告された

第九議案

二〇二三年創立一二八周年記念主催事業について報告された

第十議案

後援事業大阪府支部武道研修会

報告事項

厳島神社奉納古武道演武大会が二〇二四年九月八日に開催される予定であること、武徳会館設立構想案経過報告、会報編集報告がされた

定時社員総会終了後、臨時理事会に於いて代表理事に濱田博之（鉄心）理事が再選され就任した

以上

一般社団法人 大日本武徳会

理事 渡邊 佳代子

令和四年度

第十四回武道執行専門委員会の報告

武道執行専門委員会

記録担当

山田 文典

二〇二三年一月十五日（日）東急ホテル二階雅の間において、一般社団法人大日本武徳会 第十四回武道執行専門委員会が開催された。定刻午前十時、委員会司会上村理事が開催を告げた。

濱田鉄心武道執行専門委員長（以降委員長と呼称）は、開催挨拶で武道執行専門委員は、第六回世界武徳祭及び第六十一回全国武徳祭に向けて何をすべきか、直面する諸問題に加えて未来的に深刻な会員数の減少、経済的な逼迫があることを周知した上で、日本伝統武道の継承・発展に向けて模索し、チャレンジしていく大日本武徳会への協力を期待すると述べ、具体的に以下の内容を示した。

一 武道執行専門委員の目的と課題

二〇二〇年に開催を予定していた世界武徳祭は、世界的なコロナウイルス感染の拡大により約三年半延期され、ようやく本年四月に開催することとなった。前回大会からは七年以上にある歴史的な大会の開催の目的は、

- (一) 本会の歴史の重要な一ページとなる。
- (二) 参加するすべての人が感動する大会とする。
- (三) 参加する世界十八か国二五〇名の外国人武道家が、参加してよかったと思われるよう日本の武道が日本伝統武道の神髄を見せる。

である。
大会の無事・安全を第一に事業の協力をチームワークの総合力が十二分に発揮できることを期待すると述べた。

二 大会役員の役割と責任

役割と責任は、表裏一体である。すべての担当の歯車がかみ合っていくことで目的を達成することができる。

委員、武道執行専門員、準武道執行専門員、職員、参加者全ての相乗効果を生み出すことにつながる。役割分担を全力で果たしていただくことに期待すると述べた。

三 五 担当各委員の研修

委員長を中心に各担当委員が様々な問題点を検討し、最重要課題をどう解決させるか短時間の集中審議を開始しよう説明があった。

円卓会議は、検証四卓、管理運営一卓、司会進行一卓、表彰一卓に別れ、参加者の自己紹介から円卓座長を中心に活発な検討が行われた。

六 各委員会の総括と報告

会議の概要について各委員長報告がされた。

- (一) 検証委員長からは、「黄色旗」の意味の理解の徹底、礼節の重視、具体的事例に基づく対応の実践に努めることが検討された旨の報告がされた。
- (二) 管理運営委員長からは、資質の高い委員の人選、コロナ感染防止を含めた衛生管理の徹底、部外者による無断撮影対策の徹底及び具体的指示の反復実施を行う等の検討結果が報告された。
- (三) 司会進行委員長からは、イレギュラーな事態発生防止に向けた受付確認、二団体前までの目視確認の実施、各団体長との連携強化、礼式の徹底及びパンフレットの見やすさへの配慮等について検討結果が報告された。
- (四) 表彰委員長からは、スムーズな表彰を実施するため、表彰者、受賞者双方へのきめ細かい事前連絡を実施などの検討結果と積極的な協力を求める発言があった。

武道執行専門委員会での貴重な意見や提案は、理事会に持ち帰り、更に検討をすることとした。

七 二〇二三年創立百二十八周年本会主催事業

- 塩田事務局長から
- 四月二十五日（火）… 国際部青龍殿国宝青不動明王奉納古武道演武大会
- 四月二十七日（木）… 国際部伊勢神宮奉納古武道演武大会
- 四月二十八日（金）… 第六回世界武徳祭及び第六十一回全国武徳祭・開

会式

四月二十八日(金) 第六回世界武徳祭及び第六十一回全国武徳祭・祝宴会

四月二十九日(土・祝) 第六回世界武徳祭及び第六十一回全国武徳祭

四月三十日(日) 国際部錬成大会

七月十七日(月・祝) 第二十八回全国青少年武徳祭

九月三十日(土) 秋の高校者審査会

十月一日(日) 第三十一回平安神宮奉納古武道演武大会

の説明がされた。

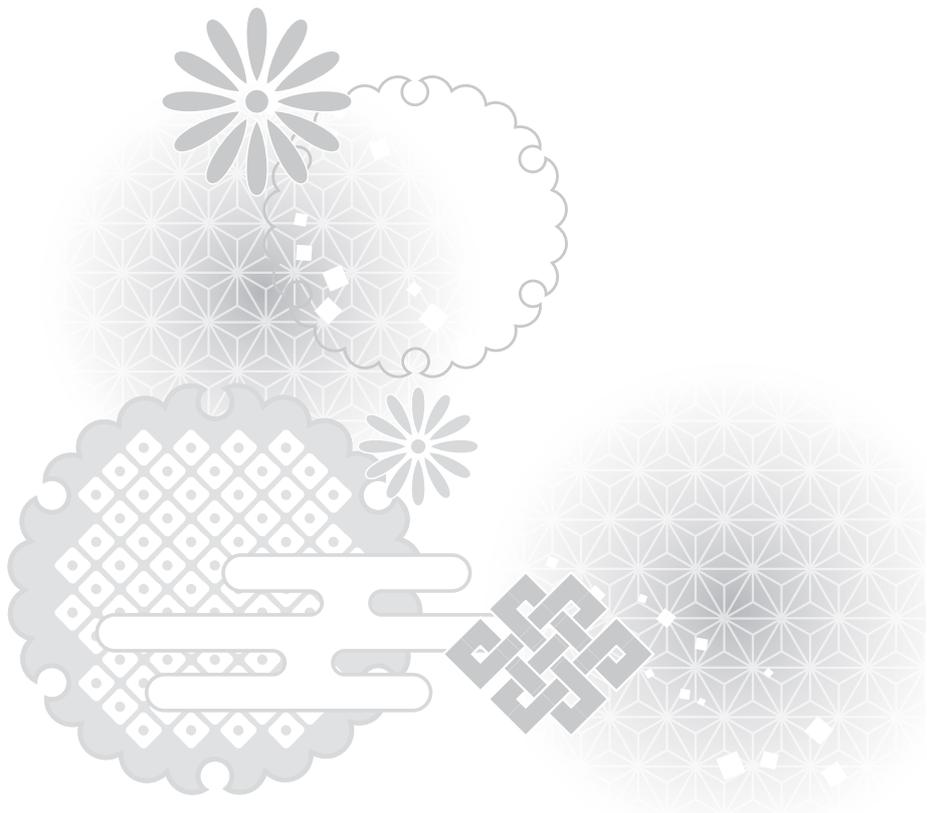
八 質疑・応答

救護医師の井本委員から、現在の医療現場におけるコロナ感染飛沫の範囲予測や武道センターでの外国人用大型スリッパの事前配置に伴う衛生問題について報告があった。

閉会にあたり、濱田代表理事から、本日の会議は、活気のある有意義なものとなった。

理想と実践、意識と感覚にはそれぞれ大きなギャップが存在する。気づかない事象や突発事故の事前防止に向け各担当委員が最大限の準備を行い、武道執行専門委員は、大日本武徳会の最後の砦的な位置にあることを肝に銘じてほしいと締めくくった。

定刻、上村進行役の閉会宣言で、第十四回武道執行専門委員会は閉会した。



第10回 定時社員総会



第14回 武道執行専門委員会



高段者審査会
合格者

【居合道・古武道】

七段 渡邊 祥正

七段 石川 聡

七段 松村 則夫

八段 井本 敏弘

八段 北川 茂

【空手道・沖縄古武道】

六段 藪崎 聡

六段 岡田 豊

八段 花元 浄一





第30回 平安神宮奉納 古武道演武大会



事務局撮影

日時：令和4年10月16日（日）
午前11時30分～

場所：平安神宮「額殿」

主催：一般社団法人 大日本武徳会

大会次第

◎平安神宮祈願参拝 午前11時30分より
玉串拝礼 濱 田 鉄 心

◆◆◆ 開 会 式 ◆◆◆ 正 午

司会進行 大会進行委員長 藤 井 正 巳

- ① 開 会 宣 言 大会管理運営委員長 山 田 文 典
- ② 開 会 挨 拶 大会副委員長兼大会検証委員長 竹 田 豊
- ③ 演 武 上 の 注 意 大会管理運営副委員長 坂 本 俊 一
- ④ 祓 い の 儀 居 合 道 教 士 八 段 渡 邊 佳 代 子

◆◆◆ 演 武 ◆◆◆

*時間の都合上、演武時間は7分以内とする。試斬り並びに弓術・古武術も7分以内とします。

◆◆◆ 閉 会 式 ◆◆◆

- ① 納 め の 儀 居 合 道 範 士 八 段 中 森 茂 範
- ② 講 評 大会検証副委員長 中 田 浩 大
- ③ 閉 会 挨 拶 大会委員長 濱 田 鉄 心
- ④ 閉 会 宣 言 大会検証副委員長 上 村 雅 彦

第三十回平安神宮奉納 古武道演武大会報告

大会検証副委員長 上村 雅彦

令和四年十月十六日の日曜日に第三十回平安神宮奉納古武道演武大会が開催されました。

令和元年十月六日に行われてから後、コロナウィルスの影響で二年、中止となりましたので久々の開催でありました。若干の不安がありました所幸天候にも恵まれ、役員の先生方とご参加いただいた皆様のご協力の御陰を持ちまして大きな事故もなく無事に終えることが出来ました。

午前十一時三十分より平安神宮祈願参拝、神職による御祈祷の後に代表理事濱田鉄心先生による玉串拝礼がなされました。

額殿に戻りまして開会式が範士藤井正巳先生の司会進行で始まりました。範士山田文典先生による開会宣言の後、開会挨拶を範士竹田豊先生より頂きました。

演武上の注意を範士坂本俊一先生にご説明頂き、祓いの儀を教士渡邊佳代子先生の見事な刀演武により会場を清めて頂きました。

演武は日置流印西派弓刀錬心館道場、松道流松栄館、古流無双直伝英信流神和会、無双直伝英信流日本古武道辰慶館、一心無双流居合道剣心会A、風伝流北陸連盟修童館A、無双直伝英信流北陸連盟修童館B、無双直伝英信流日本古武道誠慧塾、正守和道塾A、正守和道塾B、正守和道塾C、形意和真流唐手道武学館、松道流松栄館、講道館柔道、無双流大阪修武会、正統無双直伝英信流居合兵法日本古武道直心会、虚心流居合剣法弓刀錬心館道場、日本古式武道協会拳正会、国際部無想智心流兵法空手道、正守和道塾、剛柔流空手道、素心流居合抜刀術、無双直傳英信流、夢想神伝流古武道唯心会、土佐伝承直伝英信流、一心無双流居合道剣心会B、無双直伝英信流至誠館、誠道館虚心流居合剣法、無双直伝英信流兵庫正武館、直伝円心流居合道、沖繩又吉古武道光道館大阪堺守礼館、国際部、心月無想柳流柔術甲武館、日置流半弓術弓刀錬心館道場と各団体先生方による素晴らしい演武がなされました。

御礼の御挨拶

第30回平安神宮奉納古武道演武大会も皆様の多大なる御協力と御支援によりお陰様で無事盛大裡に終了いたしました。ありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

一般社団法人 大日本武徳会

大会参与

ご協賛及びお祝金をいただいた個人及び団体（順不同）

御芳名	御芳名
濱田 鉄心 様	竹田 豊 様
山本 楠城 様	坂本 俊一 様
山田 文典 様	柳田 邦治 様
正守和道塾 様	日本古式武道協会 拳正会 様
西村 義行 様	滝山 昭 様
北川 茂 様	石本 一平 様
日本古武道 誠慧塾 様	村山 盛哲 様
小松 秀敏 様	渡邊 祥正 様
杉生 闌祐 様	神和会 様

納めの儀は範士中森茂範先生の卓越した技により今大会演武が厳かに終了。閉会式は講評を範士中田浩大先生、閉会の挨拶を大会委員長濱田鉄心先生に頂きました。

上村雅彦の閉会宣言にて本大会が無事終了となりました。今回はコロナウィルスの対策を役員の先生方による御指導の下、武道執行専門委員の先生方の多大なるご尽力と御参加いただきました皆様のご協力によりまして無事なる大会開催を終えることが出来ました。

皆様に心より感謝申します。誠にありがとうございました。







第6回青龍殿 国宝青不動明王 奉納古武道演武大会



日時：令和4年12月4日（日）
午前11時開始
場所：青龍殿・大正武徳殿（将軍塚）
主催：一般社団法人 大日本武徳会

大 会 次 第

◎ 青龍殿御祈願 午前11時00分より

◆◆◆ 開 会 式 ◆◆◆

	司会進行	大会進行委員長	藤 井 正 巳
① 開 会 宣 言	大会管理運営委員長	山 田 文 典	
② 礼	国宝青不動明王・国旗・武徳会旗		
③ 開 会 挨 拶	大 会 会 長	東 伏 見 慈 晃	
④ 演 武 上 の 注 意	大会管理運営副委員長	坂 本 俊 一	
⑤ 祓 い の 儀	居 合 道 範 士 八 段	平 松 男	

◆◆◆ 演 武 ◆◆◆

*時間の都合上、演武時間は7分以内とする。試斬りも7分以内とする。

◆◆◆ 閉 会 式 ◆◆◆

① 納 め の 儀	居 合 道 範 士 八 段	伊 藤 學
② 講 評	大会進行副委員長	上 村 雅 彦
③ 閉 会 の 辞	大 会 委 員 長	濱 田 鉄 心

第六回青龍殿国宝青不動明王 奉納古武道演武大会報告

大会管理運営副委員長 坂本 俊一

令和四年十二月四日(日)、第六回青龍殿国宝青不動明王奉納古武道演武大会が、青龍殿・大正武徳殿(將軍塚)において、三年ぶりに開催されました。未だ収まらないコロナ禍の折であり、また十二月という寒い時期の大会であったことから、成人会員の参加人数が若干少なかったのですが、その分今年から参加できるようになった青少年の参加が多くあり、これまでとは少し趣の異なった新鮮な大会となりました。

事務局の努力もあり、今回は更衣室が演武場近くの暖房の効いた部屋となったことから、着替えなどの準備も快適でした。

定刻開始時間の午前十一時前に御門主による荘厳な護摩の御祈禱が実施され、青少年も正座の姿勢のまま静かに残心を保ち、厳粛な雰囲気の中御祈願を受けることができました。

その後、開会式の後、無双直伝英信流至誠館居合道範士八段平松男先生の戒いの儀を皮切りに、一組七分という時間の中、皆さん気迫のこもった演武を披露されました。特に印象に残ったのはやはり青少年の演武で、成人同様、最初の礼から道場を辞するところまで、心のこもった演武が披露されました。懸念された一般の旅行者や参拝者の方々の案内も何ら問題なく、むしろ施設を見学に来られた人たちの中には「いいものを見せてもらった」という言葉を残して帰られた方も見受けられました。

そして、最後は、双水執流武尊会居合道範士八段伊藤學先生による納めの儀で演武を締めくくり、無事、本大会の閉会となりました。

今大会は、コロナ禍での開催であり、当然コロナ対策を十分に施しての開催となったわけですが、やはり一般の方々が普通に施設を見学される中での演武大会であることから、管理運営上の課題もある事が来年度以降の懸案事項となりました。

ともあれ、寒い中、一所懸命奉納演武された皆さんの気概は青不動明王に十分

伝わったことと思われれます。それほど気迫の伴った演武の連続でした。本大会で示された武道の精神を来る第六回世界武徳祭にも反映できることを祈念いたします。大会の実施報告といたします。

御礼の御挨拶

第6回青龍殿国宝青不動明王奉納古武道演武大会も皆様の多大なる御協力と御支援によりお陰様で無事盛大裡に終了いたしました。ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

一般社団法人 大日本武徳会

大会参加

ご協賛及びお祝金をいただいた個人及び団体(順不同)

御芳名	御芳名
濱田 鉄心 様	山本 楠城 様
竹田 豊 様	山田 文典 様
坂本 俊一 様	正守和道塾 様
杉生 闌祐 様	樋口 友視 様
伊藤 學 様	村山 盛哲 様
神和会 様	滝山 昭 様





流派昇段級審査会の開催結果

一心無双流居合道剣心会 総師範 山田 文典

当流派の令和四年度昇段級審査会を、十月二十九日（土）、滋賀県大津市にあります木戸公民館において開催いたしました。

コロナ感染は、滋賀県下におきましても下げ止まり状態から微増が続いており、今回も密接・密集防止、消毒、換気、マスクの着装等、感染防止対策を徹底して実施いたしました。審査は、当流派六道場から、少年審査から四段まで十八名が受審し、密を避けるため午前・午後の二部に分けて実施いたしました。

会場は、正面に琵琶湖を遠望でき、後ろには雄大な比良山系の山並みが連なる凜とした雰囲気の中、気迫の籠もった演武が繰り広げられ、全員が合格、今年も「飛び段級」が三名出るほどの好成績を納めました。

審査後の全体稽古会では、当流派が形、試斬の他に仮想敵との間合や理合を研修するため実施している組居合の研修を行いました。

今回は、初伝、中伝の形に加えて三人組で行う組居合奥伝の形を研修し、成果の残る会となりました。

来春の世界武徳祭を目標とし、世界の武道家が感動する演武が出来るよう修練を続けて参ります。一般社団法人大日本武徳会の先生方、引き続きの御指導よろしくお願い致します。



※写真撮影時のみマスクを外しております。

